

STT072-P01

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## 南極アムンゼン湾周辺の地形変化

### Terrain Changes around the Amundsen Bay, Antarctica

大村 誠<sup>1\*</sup>, 小池 克明<sup>2</sup>, 山之口 勤<sup>3</sup>, 土井 浩一郎<sup>4</sup>, 渋谷 和雄<sup>4</sup>, 中村 和樹<sup>5</sup>, 和田 晃<sup>6</sup>

Makoto Omura<sup>1\*</sup>, Katsuaki Koike<sup>2</sup>, Tsutomu Yamanokuchi<sup>3</sup>, Koichiro Doi<sup>4</sup>, Kazuo Shibuya<sup>4</sup>, Kazuki Nakamura<sup>5</sup>, Akira Wada<sup>6</sup>

<sup>1</sup>高知女子大・生活・環境理, <sup>2</sup>熊本・院・自然科学, <sup>3</sup>RESTEC研究部, <sup>4</sup>極地研, <sup>5</sup>産総研,  
<sup>6</sup>日本GPSソリューションズ株式会社

<sup>1</sup>Kochi Women's University, <sup>2</sup>Kumamoto University, <sup>3</sup>RESTEC, <sup>4</sup>NIPR, <sup>5</sup>AIST, <sup>6</sup>Nippon GPS Solutions Corporation

南極氷床・氷河の変動の時間的・空間的变化を明らかにするために衛星搭載SAR（合成開口レーダ）が活用される。南極エンダービーランドのアムンゼン湾を対象に、1990年代からの約15年間における地形または地表変動パターンの変化を調べた。国立極地研究所では、JERS-1およびERS-1/2が取得したSARデータを蓄積しており、近年のALOS/PALSARデータとの比較によって長期間の環境変化を明らかにできる。JERS-1 SAR, ERS-1/2 AMIおよびALOS/PALSARそれぞれのデータを用いた予察的な解析から、アムンゼン湾に流れ込む小さい氷河の右岸の大陸氷床につづく斜面では、1990年代に観測された同心楕円形状の地形または氷床の変動パターンが最近は見られなくなった。本研究は、国立極地研究所一般共同研究（平成20年－22年）および高知女子大学生生活科学部と日本GPSソリューションズ株式会社測位情報システム部との共同研究として行われた。

キーワード:南極, SAR, アムンゼン湾

Keywords: Antarctica, SAR, Amundsen Bay